## 吉崎先生被災標本保存募金についての中間報告とお礼 石川依久子

一昨年3月11日の東北大震災で、故吉崎誠先生が生涯を かけて製作された貴重な海藻標本8万点が津波で流出してし まったことは記憶に新しく、先生のご無念はもとより、藻類学 会にとってもまた日本の文化資料としても誠に残念で痛恨の念 は消えません。 関係者の方のご努力で修復された1万点につ いて、それだけでもせめて大切に保管しようと、その保管資金 として,昨年の36回大会(札幌)で皆様のご寄付を募りました。 誠意ある皆様のご応募のおかげで、6万1690円のご寄付が集 まり、その後、学会メールでの呼びかけに対して、学会員から 13万4100円のご寄付をいただき、さらに吉崎先生の奥様か ら 10 万円のご協力金をいただき、総計 29 万 5790 円になりま した。これを最大限有効に活用しようと、現在、仮保管をお願 いしている岩手県立博物館(盛岡)と話を進め、博物館の収 納庫の一隅に、保管庫を置かせていただくことが可能になりま した。この保管庫の新設に皆様のご寄付金を使わせていただ きたいと思います。ゆくゆくは、吉崎先生の志された鯨と海の 科学館(岩手県下閉伊郡山田町船越)近傍に、自然博物館が 建設され、そこに収納されることが期待されますが、皆様ご存 じのように東北復興資金はままならず、具体的な予定すら立っ ていないということで、当面は岩手県立博物館にお世話になる ことになります。保管庫は、写真でお示しするような標本数十 枚が入るような保管箱(図1,2)を積み重ねたもので、湿度 を保ちカビや異物の侵入を阻止できるものです。製作業者は株 式会社資料保存器材で,現在,完成を目指して頑張ってくださっ ています。

3月には完成の見込みだそうです。その折は、皆様に代わって石川(藻類絵はがきの会、募金呼びかけ人)と北山(国立科学博物館、標本の管理と寄付金の会計等)が現地に伺い、現物の確認と岩手県博へのお礼に出向く予定にしております。





図 1, 2. 標本保管箱 (資料保存器材製)。 1. 箱を開いた状態。2. 閉じた状態。

(理研)



## 海藻行燈

海藻アートといえば、海藻おしば協会の野 田三千代さんが第一人者ですが、野田先生 の作風を洋風とすると、最近和風の趣の「画 家」が現れました。本学会会員でもある木村

光子さんは、鎌倉で採集した海藻を使い、「俊寛」や「隈取り」など日本的なものを題材にした作品を制作されています。昨年12月22日から今年1月14日まで筑波実験植物園で開催された「植物アート展」にも一部を出品してもらいましたが、「海藻行燈」(写真)などは、スイッチをONにすると和紙に貼られた海藻の絵が浮き上がる面白い作品です。 (北山)



